

サステナブル社会における資産運用業のあり方 —インタビュー—

池田 賢志

(金融庁 チーフ・サステナブルファイナンス・オフィサー)

デバリエいづみ

(インタビュアー：BofA証券株式会社 マネージング・ディレクター、主席エコノミスト)

目 次

1. サステナブルファイナンスの潮流および日本の現状
2. サステナブルファイナンス促進に向けた動き

1. サステナブルファイナンスの潮流および日本の現状

(1) CSFOのポストが作られた理由

デバリエ 金融庁は2019年3月にチーフ・サステナブルファイナンス・オフィサー（CSFO）のポストを新設し、池田さんが初代CSFOに就任されたが、まず、このポストが作られた理由についてお伺いしたい。

池田 CSFOというのは、一般にはあまり聞いたことがないポストだと思うが、フェイクではなく、金融庁の組織の規定上にしっかり位置づけられたものである。以前から、金融庁はSDGs（持続可能な開発目標）という問題にどのように取り組むべきかという検討を進めていて、それらを取りまとめた「金融行政とSDGs」を2018年6月に対外

公表した。サステナビリティに関する課題が金融の中で大きなものになっていくという見通しの下、核となるポストを作った上で、内外のネットワーク構築や組織内での知見の蓄積を進めていく必要があるという、大きな問題意識があった。国際的には、中央銀行と金融監督当局が気候変動問題に取り組むネットワークとしてNGFS（Network for Greening the Financial System：気候変動リスク等に係る金融当局ネットワーク）があり、最近では、欧州主導でIPSPF（International Platform on Sustainable Finance：サステナブルファイナンスに関する国際的な連携・協調を図るプラットフォーム）ができた。こうした中、従来のルートとは別にネットワークを構築していく必要があると金融庁では認識していた。もちろん、世界的な金融危機後の国際的な金融規制の議論を

池田 賢志（いけだ さとし）

金融庁チーフ・サステナブルファイナンス・オフィサー。2019年3月、金融庁に「チーフ・サステナブルファイナンス・オフィサー」のポストが新設されたことに伴い同職に就任。同職においては、気候変動関連の財務情報開示に係るTCFD提言の日本における実施を担当すると同時に、金融庁内のSDGs取組戦略プロジェクトチームの事務局を務めるなど、サステナブルファイナンスに関する職務を幅広く所掌。

(このインタビューは、2021年2月26日に日本証券アナリスト協会で収録された)